

認定心理士の会から

認定心理士の会イベント参加は「推し活」です

皆さんには「推し」はいますか？ アイドル、キャラクター、YouTuber……。入学したての大学1年生に自己紹介をしてもらおうと、自然と自身の推し紹介をしてくれます。昨今はそれくらい誰にでも推しがいるのが当たり前になってきているようです。

私自身は、特に推しという存在はいないと思っていたのですが、ある日の授業で学生から、「先生の心理学好きがよく分かりました」とコメントをもらいました。その後も、一度ではなく、複数名から何回も。そうかぁ、心理学が私の推し？なんだろうかと、感じている今日この頃です。

ところで、「沼」という表現もありますね。最近では「推し沼」「沼化」などというように、推しに関連させて「沼」という表現も用いられているようで、「推し」と「沼」の親近性を感じます。

心理学といえば、「こころは沼」とはよく言ったもので、心理学は領域も広く、どの専門領域も深めれば深めるほど「沼」です。日々新しい知見は増え、その探求に飽きることはありません。専門領域以外の知見に触れる新鮮さも、やみつきになるものです。分かったと思ったら、また分からないことが出てきて、さらに知りたくなる……。これぞまさに推し（心理学の）沼ですね。

さて、そんな心理学推しの皆さんにオススメなのが、認定心理士の会のイベントです。どんどん心理学に沼れる企画が盛りだくさん。運営委員の先生方が中心となって企画する内容はいずれも心理学のさまざまな側面を見せてくれて、そこには深い深い沼が広がっています。

まだ心理学に沼っていない皆さんも、すでに沼っている皆さんも、ぜひ認定心理士の会のイベントに参加して「推し活」してみませんか？

（認定心理士の会運営委員 今川ゆき）

若手の会から

問いを立てる力

9月の大会にて、若手の会主催の企画にご参加・ご協力いただいた皆様、大変有難うございました。

本年私は、学部生・高校生プレゼンコンテストの企画・運営を主導しました。今回は趣向を変え、実施した研究について発表してもらうのではなく、今の社会においてフォーカスを当てるべきだと思う課題は何かを見つけ、学生個人がそのテーマに関心を持ったきっかけは何か、なぜそれが重要な課題・問いであるかと考えるのか、既知見が蓄積されているのはどこまでで、どこからが未解決なのか、短い動画にまとめてもらうこととしました。

企画内容を改めた理由としては、この年代において身につけるべきは、研究実施能力よりもまずは自ら問いを立てる力だと考えたためです。また、研究実施までは課さず、問いを立てることを課すことで、より機会均等性を保てたらという思いもありました（ただ自分の地元などでは今も、学生が研究者を身近にみることはおろか、自分の足だけで図書館に行くのも難しいです……）。加えて、実施可能性について色々考えてしまうようになる前ならでは、鋭い視点を持った問題提起を社会に対してしてくれるのではないかと期待しました。

若手の会の企画を練ったり自身のキャリアについて考えたりする中で、後の世代の育成について自分ができることを考えるのは、どうしようもない社会の流れに多少でも抗えているような気がしてとてもやりがいを感じています。

最後に、上記企画は学生らの立てた問いに対し

企画特設サイト
はこちら



てインタビューを引き受けてくださる専門家を募集しています。企画情報の拡散だけでも結構ですので、皆様のお力をお借りできますと幸いです。

（若手の会幹事 川上澄香）